

泌尿器科学講座

教授： 穎川 晋	前立腺癌，泌尿器悪性腫瘍， 腹腔鏡手術
教授： 小野寺昭一	尿路性器感染症
教授： 岸本 幸一	尿路感染，老人泌尿器科学
教授： 池本 庸	男性科学，前立腺癌
教授： 清田 浩	尿路感染症，前立腺肥大症， エンドウロロジー
准教授： 浅野 晃司	尿路上皮腫瘍，分子腫瘍学
准教授： 古田 希	副腎腫瘍，尿路結石
准教授： 鈴木 康之	排尿障害，女性泌尿器科
講師： 波多野孝史	腎細胞癌
講師： 三木 健太	前立腺癌
講師： 古田 昭	女性泌尿器科，神経泌尿器科
講師： 木村 高弘	泌尿器悪性腫瘍，腹腔鏡手術

教育・研究概要

I. 泌尿器悪性腫瘍に関する研究

1. 基礎的研究

1) プロテオーム解析による前立腺癌新規腫瘍マーカーの探索 (車 英俊，木村高弘，鎌田裕子，小出晴久，山本順啓，面野 寛，都筑俊介)

プロテオーム解析法による新しい前立腺癌新規バイオマーカーを探索している。前立腺癌病理標本からレーザーマイクロダイセクションにより，癌部 (low GS, high GS, M1 症例)，正常部を切り出し，nano LC-MS/MS により網羅的プロテオーム解析を行い，新規前立腺癌マーカー候補蛋白を発見した。さらに，候補蛋白の発現について手術検体を用いて検討した。これらの結果は米国泌尿器科学会 (2012年) 等で発表した。

2) 日本人由来新規前立腺癌細胞株 (木村高弘)

当科にて日本人前立腺癌患者手術検体より樹立した新規前立腺癌細胞株 JDCaP のホルモン抵抗株を作成した。JDCaP 皮下移植マウスを去勢し，その後発育した腫瘍を継代し安定系を作成した。現在ホルモン抵抗性獲得機序の解明を引き続きおこなっている。

3) 神経泌尿器科，女性泌尿器科に関する基礎的研究 (古田 昭)

(1) 過活動膀胱と腹圧性尿失禁との関連に関する基礎的研究

妊娠や出産に伴う陰部神経の損傷により腹圧性尿失禁を生じることはよく知られているが，本研究で陰部神経の部分損傷が過活動膀胱を同時に誘発することを実験的に証明した。これは，女性の尿失禁のなかで混合性尿失禁 (腹圧性尿失禁と切迫性尿失禁の両方を併発) が臨床的に最も多いことと一致する。以上の内容を 2007 年国際禁制学会 (Rotterdam), Am J Physiol 2008; 294: 1510-6 で発表した。

(2) 腹圧性尿失禁に対する自家骨格筋芽細胞移植療法の有用性に関する基礎的研究

尿失禁を呈するラットの尿道に人の大腿部から採取した骨格筋芽細胞を移植したところ，尿失禁の改善が認められた。その神経生理学的機序を 2007 年国際禁制学会 (Rotterdam), Int Urogynecol J 2008; 19: 1229-34 で発表した。

(3) 腹圧時の尿禁制における α_2 アドレナリン受容体の役割に関する基礎的研究

尿禁制において α_1 アドレナリン受容体が重要な役割を果たしていることがすでに証明されている。本研究では中枢における α_2 アドレナリン受容体とグルタミン酸との関連について，2008 年米国泌尿器科学会 (Orlando), 2008 年アジア国際禁制学会 (Kaohsiung), LUTS 2009; 1: 26-9, J Urol 2009; 181: 1467-73 で発表した。

(4) 陰部神経損傷後の尿禁制代償機序に関する基礎的研究

出産後約 3 割の女性に腹圧性尿失禁が認められるが，およそ半年以内に自然消失する。一方，妊娠や出産に伴う陰部神経の損傷は加齢とともにむしろ増悪する。このことは，陰部神経損傷による尿道 (閉鎖) 機能障害を代償する機序が働いていることが推測される。この陰部神経損傷後の尿禁制代償機序について，2008 年日本泌尿器科学会 (横浜)，2009 年日本排尿機能学会 (福岡)，2009 年国際禁制学会 (San Francisco)，日本排尿機能学会誌 2009; 20: 346-51, Int Urogynecol J 2011; 22: 963-70 で発表した。

(5) TRPA1 を介する骨盤内臓器間感作による間質性膀胱炎モデルの確立

間質性膀胱炎とは膀胱に非特異的炎症を伴い，頻尿や膀胱痛を呈する病態不明の疾患である。臨床的に間質性膀胱炎患者は過敏性腸症候群や子宮内膜症など膀胱外の骨盤内臓器の炎症性疾患を高率に合併することから，その病態のひとつに骨盤内臓器間感作の関与が示唆されている。本研究では大腸や子宮の TRPA1 を刺激すると間質性膀胱炎様症状を呈することを実験的に証明した。これらの内容を 2010,

2011年日本泌尿器科学会（盛岡，名古屋），2010，2011年米国泌尿器科学会（San Francisco, Washington DC），日本排尿機能学会誌 2011；22：283-9, Int J Urol 2012；19：429-36 で発表した。また，同内容で2012 Jack Lapidus Essay Contest on Urodynamic and Neurourology Research で grand prize を獲得した。

2. 臨床的研究

1) Intermediate risk 前立腺癌に対する小線源永久挿入療法における補助内分泌療法効果の検討（三木健太，木戸雅人）

早期前立腺癌に対する放射線治療として¹²⁵I 密封小線源を前立腺に挿入する小線源永久挿入療法を2003年10月より行っている。当院は国内2番目に同治療を開始しており，現在治療計画法による線量計算の違いや，副作用の発生頻度につき研究中である。Intermediate risk 群に対して補助内分泌療法効果の効果を検討している。2008年4月から開始した“未治療中間リスク群限局性前立腺癌に対するNHT ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法 AHT 併用療法と NHT ヨウ素 125 密封小線源永久挿入併用療法とのランダム化比較臨床試験（SHIP0804）”は2011年5月末日に，全421症例の登録が完了した。このSHIP0804のプロトコルの論文は2010年にBMC cancerに掲載され，2011年のヨーロッパ放射線腫瘍学会（London）等で発表した。

2) High risk 前立腺癌に対する，外照射併用高線量率組織内照射療法の検討（三木健太，佐々木裕，山本順啓，木戸雅人）

High risk グループの前立腺癌の治療の際に外照射併用高線量率組織内照射療法（HDR brachytherapy）とホルモン治療と投与期間の違いにより治療効果と副作用にどのように影響するかを検討している。これまでに当施設で実施したHDR brachytherapy の治療成績を2010年日本泌尿器科学会（盛岡），2011年ヨーロッパ放射線腫瘍学会（London），2012年アメリカ腫瘍学会（San Francisco）等で発表した。

3) 泌尿器手術における深部血栓症予防に関する研究（畠 憲一，木戸雅人）

泌尿器科手術周術期における深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症に対する予防を，フォンダパリヌクサト륨とエノキサパリンナト륨で施行し，その有効性と安全性を比較・検討する。これまでの登録症例のデータを解析し，2012年日本泌尿器科学会（横浜）で発表した。登録期間を2012年12月まで延長し，集積データの解析後，論文化の予定である。

4) 剖検におけるラテント前立腺癌の研究（木戸雅人，木村高弘）

従来から前立腺はラテント癌の多い臓器として知られている。1970～80年代には多くの報告がされてきた。近年，前立腺癌の罹患率は増加傾向にあり，ラテント癌も同様と考えられる。Tronto 大学の Alexandre R. Zlotta 医師により世界5地域におけるラテント癌の調査が2008年に始まり，アジア地域の調査施設として慈恵医大が指名された。本学倫理審査委員会の審査を受け，2008年3月1日から「前立腺癌およびその前癌病変の頻度と年齢分布の国際比較：剖検検体を用いた中央病理による多施設共同前向き調査」を実施している。研究対象は当初2008年3月1日から2年間の予定であったが，延長となり2011年9月に追加2例を含めた全102症例の標本作製が終了した。Tronto 大学で診断解析後に慈恵医大のデータも含めて論文となる予定である。

5) 小径腎腫瘍に対するMRIガイド下経皮的凍結治療後の凍結領域の石灰化に関する検討（波多野孝史）

2001年3月から2002年5月まで，MRIガイド下経皮的凍結治療施行した13例において，凍結領域局所のCT所見による経時的変化について検討した。治療直後凍結領域は造影効果のない腫瘍を呈するが，経時的変化として凍結領域の石灰化を7例に認めた。石灰化出現までの期間は，平均45ヵ月であった。石灰化の形成機序は不明であるが，腎におけるカルシウム代謝の異常や凍結による創傷治癒の過程で出現する可能性が示唆された。本研究の内容は，Low Temperature Medicine 2011；37(4)：100-3 に発表した。

6) 進行性腎細胞癌に対するスニチニブ投与における腫瘍縮小と血小板減少との関連に関する検討（波多野孝史，村上雅哉）

進行性腎細胞癌に対するスニチニブ投与における有効性と有害事象について，ファーストライン治療としてスニチニブ投与した7例を対象として検討した。治療に伴う腫瘍縮小率，血小板減少率を測定し検討した。スニチニブ治療1コース目において血小板減少による有害事象はgrade1が1例，grade2が3例，grade3が2例であった。血小板減少率70%以上の3例は腫瘍縮小効果を認めたが，60%未満の4例は腫瘍縮小効果を認めず，その後治療を継続しても十分な効果を認めなかった。進行性腎細胞癌に対しスニチニブ投与1コース目における血小板減少と腫瘍縮小とは相関する傾向がみられた。血小板減

少と腫瘍縮小効果の関連を検討する場合、CTCAEの評価とともに治療前と比較した血小板減少率も参考にすべきと考えられた。本研究は2011年第99回日本泌尿器科学会総会で発表した。

8) 泌尿器科悪性腫瘍手術後抗凝固療法中に起きた出血関連合併症の検討 (波多野孝史)

静脈血栓塞栓症 (VTE) ガイドラインが作成され、当科では術後VTE予防目的に抗凝固療法を行っている。これにより術後出血のリスクが高まるという懸念がある。悪性腫瘍手術後抗凝固療法中に起きた出血関連合併症について臨床的に検討した。悪性腫瘍に対し手術を行い術直後よりヘパリン、フォンダパリヌクスナトリウムによる抗凝固療法を行った210例を対象とした。合併症のみられた12例について合併症の種類、grade、発症時期、治療を集計し検討した。致死的な出血や出血により再手術を施行した症例は認めなかった。抗凝固療法に起因する出血関連合併症も約5%にみられた。出血関連合併症の多くは術後2日以内に発症するが、5日以上経過してから発見されることもあり、個々に対する十分な臨床的観察と迅速な対処が必要と考えられた。本研究は2011年第49回日本癌治療学会学術集会で発表した。

【点検・評価】

2011年は日本泌尿器科学会などの国内学会だけでなく、海外でも数多く発表することができた。特に若手が積極的に参加したことが印象的であった。基礎研究では引き続きプロテオミクスを中心とした研究で確実に成果を上げており、臨床研究においても他施設共同をはじめ多くのプロジェクトが進行した。神経泌尿器科、女性泌尿器科に関する基礎的研究も引き続き行っており、今後のさらなる成果が期待される。

研究業績

I. 原著論文

- Sydes MR¹⁾, Egawa S, Sanders K¹⁾, Amos C¹⁾ (¹Medical Research Council Clinical Trials Unit), Clarke N (The Christie and Salford Royal Hospitals Foundations Trusts), Kimura T, James ND (University of Birmingham). Reflections on attempted Anglo-Japanese collaboration on STAMPEDE: a randomized controlled trial for men with prostate cancer. *Int J Urol* 2011; 18(8): 553-4.
- 小野寺昭一, 清田 浩, 遠藤勝久, 伊藤博之, 細部高英, 讃岐邦太郎, 吉田正樹, 高倉真理子, 高畑正裕. 男子淋菌性尿道炎由来 *Nesseria gonorrhoeae* の各種抗菌薬に対する感受性と cefixime 低感受性株 *penA* 遺伝子の解析. *日治療会誌* 2011; 59(1): 17-24.
- 池本 庸, 成岡健人, 梅津清和, 大塚則臣, 田代康次郎, 小杉 繁. 困窮度の改善から見た BPH/male LUTS 症例に対するナフトピジルの有効性に対する検討. *臨泌* 2011; 65(5): 315-21.
- Yasuda M, Takahashi S, Kiyota H, Ishikawa K, Takahashi A, Yamamoto S, Arakawa S, Monden K, Muratani T, Hamasuna R, Hayami H, Mastumoto T. Japanese guideline for clinical research of antimicrobial agents on urogenital infections: the first edition. *J Infect Chemother* 2011; 17(4): 579-94.
- Ishikawa K, Matsumoto T, Yasuda M, Uehara S, Muratani T, Yagisawa M, Sato J, Niki Y, Totsuka K, Sunakawa K, Hanaki H, Hattori R, Terada M, Kizuki T, Maruo A, Morita K, Ogasawara K, Takahashi Y, Matsuda K, Hirose T, Miyao N, Hayashi T, Takeyama K, Kiyota H, Tomoita M, Yusu H, Koide H, Kimura S. The nationwide study of bacterial pathogens associated with urinary tract infections conducted by the Japanese Society of Chemotherapy. *J Infect Chemother* 2011; 17(1): 126-38.
- 鈴木康之, 古田 昭, 本田真理子, 石井 元, 田畑龍治, 鈴木 鑑, 柳沢孝文, 木村高弘, 古田 希, 成岡健人, 鈴木英訓, 高坂 哲, 颯川 晋. 切迫性尿失禁を有する女性過活動膀胱に対する薬剤切り替えの検討 イミダフェナシン効果不十分例に対するソリフェナシンの有用性評価. *泌外* 2011; 24(7): 1173-80.
- 遠藤勝久, 小野寺昭一, 清田 浩, 鈴木博雄, 細部高英, 成岡健人, 讃岐邦太郎. 男子淋菌性尿道炎由来淋菌の各種抗菌薬に対する感受性 2006~2010年分分離株の比較. *日治療会誌* 2011; 59(3): 308-12.
- Thomas C, Zoubeidi A, Kuruma H, Fazli L, Lamoureaux F, Baraldi E, Monia BP, MacLeod AR, Türoff JW, Gleave ME. Transcription factor Stat5 knock-down enhances androgen receptor degradation and delays castration-resistant prostate cancer progression *in vivo*. *Mol Cancer Ther* 2011; 10(2): 347-59.
- Lamoureaux F, Thomas C, Yin MJ, Kuruma H, Fazli L, Gleave ME, Zoubeidi A. A novel HSP90 inhibitor delays castrate-resistant prostate cancer without altering serum PSA levels and inhibits osteoclastogenesis. *Clin Cancer Res* 2011; 17(8): 2301-13.
- Guo C, Linton A, Kephart S, Ornelas M, Pairish M, Gonzalez J, Greasley S, Nagata A, Burke BJ, Edwards M, Hosea N, Kang P, Hu W, Engebrestsen J, Briere D, Shi M, Gukasyan H, Richardson P, Dack K, Underwood T, Johnson P, Morell A, Felstead R, Kuruma H,

- Matsimoto H, Zoubeidi A, Gleave M, Los G, Fanjul AN. Discovery of aryloxy tetramethylcyclobutanes as novel androgen receptor antagonists. *J Med Chem* 2011; 54(21): 7693-704.
- 11) Furuta A, Suzuki Y, Asano K, de Groat WC, Egawa S, Yoshimura N. Urethral compensatory mechanisms to maintain urinary continence after pudendal nerve injury in female rats. *Int Urogynecol J* 2011; 22(8): 963-70.
 - 12) 古田 昭, 鈴木康之, 柳澤孝文, 本田真理子, 小池祐介, 鈴木 鑑, 成岡健人, 林 典宏, 穎川 晋. 大腸・子宮の TRPA1 刺激を介した骨盤内臓器間感作による間質性膀胱炎様モデルの確立. *日排尿機能誌* 2011; 22(2): 283-9.
 - 13) Furuta A, Suzuki Y, Honda M, Koike Y, Naruoka T, Asano K, Chancellor M, Egawa S, Yoshimura N. Time-dependent changes in bladder function and plantar sensitivity in a rat model of fibromyalgia syndrome induced by hydrochloric acid injection into the gluteus. *BJU Int* 2011; 109(2): 306-10.
 - 14) 木村高弘, 佐々木裕, 三木 淳, 山本順啓, 穎川 晋. 【“長期成績”～IV. “前立腺全摘除術”～】腹腔鏡下前立腺全摘術における手術成績 QOL を中心に. *Jpn J Endourol* 2011; 24(1): 49-54.
 - 15) 三木 淳, 佐々木裕, 木村高弘, 穎川 晋. 前立腺癌における癌幹細胞同定と解明. *泌外* 2011; 24(8): 1239-40.
- ## II. 総 説
- 1) 清田 浩. 診断の指針 治療の指針 慢性前立腺炎の排尿症状. *総合臨* 2011; 60(2): 299-301.
 - 2) 鈴木康之. 第9回 LUTS Expert Forum 記録 特別講演 2 ICS-IUGA 2010 最新報告: 臨床研究の話題から. *泌外* 2011; 24(7): 1214-7.
 - 3) 鈴木康之. 【クイックマスター 泌尿器科の病気・治療・ケア】過活動膀胱. *泌ケア* 2011; 16(4): 356-7.
 - 4) 鈴木康之. 【メタボリックシンドロームと排尿障害】メタボリックシンドロームと過活動膀胱. *排尿障害* 2011; 19(1): 7-10.
 - 5) 三木健太. 【ハイリスク前立腺癌に対する手術治療戦略】国内外のガイドラインからみたハイリスク前立腺癌の治療戦略. *泌外* 2011; 14(2): 125-8.
 - 6) 三木健太. 【クイックマスター 泌尿器科の病気・治療・ケア】放射線治療 (外部照射と内部照射). *泌ケア* 2011; 16(4): 50-1.
 - 7) 三木健太. 【前立腺癌 (第2版) - 基礎・臨床研究のアップデート -】臨床 前立腺癌の治療 外科治療 外科治療の進歩. *日臨* 2011; 69(増刊5 前立腺癌): 330-3.
 - 8) 林 典宏, 車 英俊, 穎川 晋. 【前立腺癌 (第2版) - 基礎・臨床研究のアップデート -】基礎 前立腺癌のバイオマーカー プロテオーム解析による新規マーカーの同定. *日臨* 2011; 69(増刊5 前立腺癌): 140-4.
 - 9) 山田裕紀, 穎川 晋. 【こんなときどうする!? 泌尿器科手術のトラブル対処法】体腔鏡下手術 後腹膜鏡下根治的前立腺摘除術 Intra-fascial nerve sparing はどうすればよいか. *臨泌* 2011; 65(4): 126-8.
 - 10) 山田裕紀, 穎川 晋. 内視鏡で見えてきた解剖 (第3回) 内視鏡で見えてきた前立腺尖部の解剖. *排尿障害* 2011; 19(3): 259-64.
- ## III. 学会発表
- 1) 穎川 晋. (教育セミナー) 腎癌治療の最新知見. 第99回日本泌尿器科学会総会. 名古屋, 4月.
 - 2) Kiyota H. (ISC & AAUS joint Symposium 1: Prevention of UTI and STI) 4. Other preventive Method in STT. 第59回日本化学療法学会総会. 札幌, 6月.
 - 3) 鈴木康之, 古田 昭, 本田真理子, 石井 元, 田畑龍治, 鈴木 鑑, 柳澤孝文, 木村高弘, 古田 希, 成岡健人, 鈴木英訓, 高坂 哲, 穎川 晋. 難治性過活動膀胱に対する薬剤切替の検討 - イミダフェナシン無効例に対するソリフェナシンの有用性評価 -. 第99回日本泌尿器科学会総会. 名古屋, 4月.
 - 4) 古田 希, 田畑龍治, 坂東重浩, 石井 元, 山本順啓, 三木 淳, 山田裕紀, 林 典宏, 木村高弘, 穎川 晋. 原発性アルドステロン症の高血圧予後に関する検討. 第99回日本泌尿器科学会総会. 名古屋, 4月.
 - 5) 遠藤勝久, 清田 浩, 讃岐邦太郎, 鈴木博雄, 成岡健人, 細部高英, 小野寺昭一. 男子淋菌性尿道炎由来淋菌に対する各種抗菌薬の感受性 - 1999~2011 年度分離株の比較 -. 日本性感染症学会第24回学術大会. 東京, 12月.
 - 6) 波多野孝史. 進行性腎細胞癌に対するスニチニブ投与における腫瘍縮小と血小板減少との関連. 第99回日本泌尿器科学会総会. 名古屋, 4月.
 - 7) 波多野孝史. (ワークショップ: 早期腎癌に対する最新の診断と治療) オープン MRI ガイド下経皮的凍結治療. 第76回日本泌尿器科学会東部総会. 横浜, 10月.
 - 8) Kuruma H, Gust K¹⁾, Matsumoto H¹⁾, Zoubeidi A¹⁾, Fazli L¹⁾, Loddick S²⁾, Brooks N²⁾ (²⁾AstraZeneca Pharmaceuticals), Gleave M¹⁾ (¹⁾The Vancouver Prostate Centre). Novel anti-androgen ARD1 down-regulates androgen receptor levels and activity and suppresses prostate cancer LNCap cell growth *in vitro* and *in vivo*. *Advancements in Urology 2011: an AUA (American Urological Association)/JUA (Japanese Urological Association) Symposium, Hawaii,*

- Feb. [Int J Urol 2011; 18(5): P398]
- 9) Miki K. Prostate brachytherapy with or without adjuvant ADT in intermediate prostate cancer: study protocol. ESTRO (European Society for Radiotherapy & Oncology) International Oncology Forum. London, May.
- 10) 三木健太. インターネット遠隔医療支援システムを利用した密封小線源治療の技術指導. 第7回泌尿器腫瘍放射線研究会. 名古屋, 10月.
- 11) 三木健太. (シンポジウム6: 前立腺癌: ハイリスク早期癌の治療戦略) ハイリスク前立腺癌に対するLDRブラキセラピーの治療成績. 第76回日本泌尿器科学会東部総会. 横浜, 10月.
- 12) 古田 昭, 鈴木康之, 柳澤孝文, 本田真理子, 小池祐介, 成岡健人, 颯川 晋, 吉村直樹. 骨盤内臓器における膀胱感作を誘発するTransient Receptor Potential チャネルの解明. 第99回日本泌尿器科学会総会. 名古屋, 4月.
- 13) Furuta A, Suzuki Y, Naruoka T, Furuta N, Egawa S, Chancellor MB, Yoshimura N. Analysis of transient receptor potential channels related to bladder overactivity induced by pelvic organ cross-sensitization. 106th Annual Meeting of the American Urological Association. Washington, DC, May.
- 14) Furuta A, Egawa S, Chancellor MB, Yoshimura N. Analysis of TRP receptors involved in pelvic organ cross-sensitization in rats. Society for Urodynamics and Female Urology 2012 Winter Meeting. New Orleans, Mar.
- 15) 木村高弘, 古里文吾, 三木 淳, 山本順啓, 鎌田裕子, 鷹橋浩幸, Jan Trapman J¹⁾, van Leenders GJHL¹⁾ (¹Erasmus University Medical Center), Tapio Visakorpi T (University of Tampere), 颯川 晋¹⁾. 日本人前立腺癌におけるERG発現の検討. 第76回日本泌尿器科学会東部総会. 横浜, 10月.
- 16) 三木 淳. (Symposia on Specific Tumors) Investigations of prostate epithelial stem cells and prostate cancer stem cells (正常前立腺幹細胞, および前立腺幹細胞研究について). 第70回日本癌学会学術総会. 名古屋, 10月.
- 17) 三木 淳, 石井 元, 都筑俊介, 木村高弘, 颯川 晋. (ポスター: 膀胱) 腹腔鏡下膀胱全摘除術. 第25回日本泌尿器内視鏡学会総会. 京都, 11月.
- 18) 山本順啓, 三木 淳, 山田裕紀, 林 典宏, 木村高弘, 水上齊之助, 三木健太, 鷹橋浩幸, 古田 希, 颯川 晋. 初発pT1膀胱癌における病理組織検体レビューについての臨床的検討. 第99回日本泌尿器科学会総会. 名古屋, 4月.
- 19) 木戸雅人, 中村 弥, 三木健太, 青木 学, 兼平千裕, 颯川 晋. ヨウ素125密封小線源永久挿入治療(SI)の再発に対しSalvage SIを行った5例の報告. 日本放射線腫瘍第24回学会学術大会. 神戸, 11月.
- 20) 石井 元, 三木 淳, 田畑龍治, 都筑俊介, 山本順啓, 佐々木裕, 山田裕紀, 木村高弘, 颯川 晋. (ポスター: 前立腺2) intrafascial 神経温存手技の病理結果についての検討. 第25回日本泌尿器内視鏡学会総会. 京都, 11月.

V. その他

- 1) Yaginuma T, Yamamoto H, Mitome J, Kobayashi A, Yamamoto I, Tanno Y, Hayakawa H, Miyazaki Y, Yokoyama K, Utsunomiya Y, Miki J, Yamada H, Furuta N, Yamaguchi Y, Hosoya T. Successful treatment of nephrotic syndrome caused by recurrent IgA nephropathy with chronic active antibody-mediated rejection three years after kidney transplantation. Clin Transplant 2011; Suppl23: 28-33.
- 2) Akamatsu S^{1, 2)}, Takata R^{1, 3)}, Haiman CA⁴⁾, Takahashi A¹⁾, Inoue T²⁾, Kubo M¹⁾, Furihata M (Kochi Medical School), Kamatani N¹⁾, Inazawa J (Tokyo Medical and Dental Univ.), Chen GK⁴⁾ (⁴Univ. of Southern California), Le Marchand L⁵⁾, Kolonel LN⁵⁾ (⁵Univ. of Hawaii), Katoh T (Kumamoto Univ.), Yamano Y (Showa Univ. School of Medicine), Yamakado M (Mitsui Memorial Hosp.), Takahashi H, Yamada H, Egawa S, Fujioka T³⁾ (³Iwate Medical Univ.), Henderson BE, Habuchi T, Ogawa O²⁾ (²Kyoto Univ.), Nakamura Y, Nakagawa H¹⁾ (¹RIKEN). Common variants at 11q12, 10q26 and 3p11.2 are associated with prostate cancer susceptibility in Japanese. Nat Genet 2012; 44(4): 426-9.
- 3) 畠 憲一, 岸本幸一, 丸茂 健. 肉眼的血尿と排尿時違和感を契機に診断された限局性尿管アミロイドシスの1例. 泌外 2011; 24(3): 373-6.
- 4) 畠 憲一, 宇野正志, 都筑俊介, 小池祐介, 波多野孝史, 岸本幸一, 吉良慎一郎, 清田 浩, 颯川 晋, 三宅 亮, 大谷 圭. 気腫性腎盂腎炎と気腫性膀胱炎の併発例. 感染症誌 2011; 85(6): 674-7.